

## — 令和3年度卒業式 式辞 —

校庭の木々の芽にも、確かな春の息吹が感じられる今日、この佳き日に、ご来賓の方々、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立須磨友が丘高等学校、第37回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、在校生、職員にとりましても、大きな喜びでございます。

本日、ご臨席を賜りました皆様方には、平素より、本校教育活動に深いご理解と温かいご支援をいただき、さらには、巣立ちゆく卒業生の門出に華を添えていただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました、228名の皆さん、卒業おめでとうでございます。本校の教育課程を修了し、めでたく卒業の日を迎えることができましたことは、一人一人が、3年間、たゆまぬ努力を積み重ねてきた結果であります。その努力に、心から賛辞を送ります。

皆さんの胸中には、3年間の学校生活のさまざまな場面が、それぞれの思いをもって、よみがえっていることだと思います。

ともに学んだクラスメイト、勝利・レベルアップをめざし切磋琢磨した部活動・委員会などの仲間、担任、顧問の先生…さまざまな出会い・人間関係があったことでしょう。語り、笑い、はしゃぎ、時には涙し、また時には意見が合わず口論したこともあったでしょう。これらの経験こそが、皆さんの血となり肉となり、人格、人物を創り上げてきたのです。この経験と出会いは、生涯の「財産」「宝物」です。

現在、世界の人口が80億に迫ろうとする中、同じ時代に、同じ国で、ここ兵庫の須磨友が丘高等学校で出会ったことは、決して偶然ではなく、深い「ご縁」で結ばれているということなのです。「小才は、縁に出逢って縁に気付かず。中才は、縁に気づいて縁を活かさず。大才は、袖触れあう縁をも、これを活かす」…大才、大きな才能、優れた才能の持ち主は、偶然、側にいる人と服の袖が触れ合った、ただそれだけのことであっても、それは、その人と、産まれる前、前世から何かの「ご縁」があって、この現生で袖が触れ合ったのだ、と考え、その「ご縁」を大切にし、活かしているという生き方の教えで、江戸時代の柳生家の家訓とされたものです。

人生を決めるのは、人との出会いです。いつどんなタイミングで出会い、その人とのご縁、人間関係をどのように築いていくか…一つ覚えておいてください…“懸情流水 受恩刻石”（けんじょうりゅうすい じゅおんこくせき）情けを懸けしは水に流し、恩を受けしは石に刻む…人にかけて情けは忘れてしまえ、人から受けた恩は決して忘れるな…私も、常々心がけています。この実践は、皆さんの人生を大きく左右することでしょう。是非、覚えておいてください。

今日は、深いご縁をいただきました皆さんに、心を込めて、最後のメッセージ、私の心の、中心にある思いを、4点お話しさせていただきます。

最初にお伝えしたいことは…やはり「命」、そして「親孝行」について…

今から約137億年前の「ビッグバン」による「宇宙」の誕生、約46億年前に、この「地球」が誕生、その地球上に「生命」が誕生したのは、約38億年前だと考えられています。あるとき、全く何もない「無」から、突然、「有」なる「命」が誕生したのでしょうか。この「神秘」を解き明かすことは、容易なことではありません。

現在、科学・技術の進歩は、日進月歩、すさまじい勢いです。

乗り物、移動革命に向けた取り組みも各国で着実に前進しています。クルマも地上での移動から空の移動へ、いわゆる「空飛ぶクルマ」の開発が進んでおり、国内では、官民一体となって研究開発や実用化を見据えた法整備、ルール作りが進められています。お隣、大阪府では、3年後の2025年開催予定の「日本国際博覧会・大阪・関西万博」で、「空飛ぶクルマ」を飛ばす計画を立てています。

また、昨年12月には、株式会社ZOZOの創業者、前澤友作（まえざわゆうさく）氏が、ロシアの宇宙船「ソユーズ」で宇宙へ飛び立ったことは、記憶に新しいところですが、現在、宇宙航空研究開発機構JAXAは、13年ぶりに、新たな宇宙飛行士の候補者を募集しており、そこでは、多様な人材を確保するために、専門分野や学歴、年齢を問わないなど、応募資格を大幅に緩和しています。

一般の人々が、宇宙飛行士になれる時代が急速に進んでいるのです。

「空飛ぶクルマ」に「宇宙飛行士」…まさに、SFの世界が現実となってきています。

しかし、皆さん、未だ、「命」を、人工的に一からつくることに成功したという話は聞こえてきません。

「生命」を知るための研究は、はるか昔から行われてきました。生物は細胞から成り、細胞の中で何が起きているかも分かってきました。19年前、2003年には、ヒト細胞の核内にあるDNAの全塩基配列の解読にも成功し、人間の遺伝子の総数は、約2万個であることも解明されています。

しかしそれらの知見をもってしても、いまだ人類は、生物どころか、細胞一つ創るにも至っていません。

地球上に「生命」が誕生した、今から約38億年前、そこから途方もない時間が経過した、今からおよそ700万年前、ようやく、「人類」がアフリカで誕生し、その後、いくつもの種に枝分かれし、誕生と絶滅を繰り返しながら進化してきました。最新の研究によれば、分かっているだけでも、およそ20種もの「人類」が地球上に暮らしていたと考えられています。時には複数の人類種がすみわけて共存し、あるいは熾烈（しれつ）な生存競争を繰り返していたと考えられています。

そして、その進化のバトンを受け継ぐ、最終ランナーとして登場したのが、私たち…ラテン語で、「賢い人間」という意味をもつ「ホモ・サピエンス」です。やがて、ほかの「人類」は全て絶滅し、「ホモ・サピエンス」は地球上で唯一の「人類」として生き残ったわけです。

…この壮大な時間の流れの中で、幾世代にもわたり、「命」の炎が一度も途切れることなく連綿と続き、皆さんは、十数年前に、この世に生を受けられました。皆さんの身体の中には、幾百万、幾千万という、ご先祖の連綿たる「命」の炎が燃えているのです。

また、皆さん、今朝、何を食べられましたか？昨夜は何を食べられましたか？

かわいい牛の「命」を、豚の「命」を、鶏の「命」を、元気に泳ぐ魚の「命」を、野菜もすくすく育ち、確かな「命」を持っています。数えきれない数の「命」を、まさに、「いただき」、私たちは、今、ここに、自らの「命」を維持できているのです。私たちの「命」の中には、無数の動植物の、尊い「命」が内在しているのです。

皆さんの、身体の中で燃える、幾千万もの、ご先祖の連綿たる「命」と、動植物からいただいた「命」への感謝を思えば、軽々に、「私なんかいない方がいい」「生きたくない」など、言えるでしょうか。自分の「命」は、自分だけに属するものではなく、関わりを持つすべてのものに属するものなのです。全力で、感謝の心で、天寿を全うすることこそ、受け継ぎ、いただいた尊い「命」に報いる、唯一の道ではないでしょうか。

“最大の親不孝”は、この「命」を、ご両親、保護者より先に失うこと、そして、“最大の後悔”は、この世のステージに立たせてくれたご両親、保護者の方に、孝行、恩返しできていない内に、ご両親、保護者を失うことです。

皆さん、今日は、大きな親孝行、家族孝行をしています。孝行を重ねてください。人類最大の愛情とは、「親」から「子」に注がれる愛情です。

時々、古いアルバムを開いてください。ご両親、ご家族の方々が、皆さんの誕生、そして成長を、どれほど喜んでこられたか、皆さんが、どれだけ多くの愛情を注がれてきたかを知ることができるでしょう。

ここ3年間だけを見ても、高校合格を一緒に喜んでくれ、そして、通学に苦労は無いだろうか、クラスには馴染めているだろうか、部活動は順調だろうか、雨が降れば、傘を持っていったかを心配し、帰りが遅ければ、事故に巻き込まれてはいないかを、口数が少ない時には、学校でいやなことでもあったのかと、また、友達の多くが持っている物があると聞かされれば、同じように買い揃えてくれたこともあったでしょう、学年が進むにつれ、成績はどうだろうか、進路は希望通り決まるだろうか、そして、新型コロナに負けないだろうか…気をもみながら、「人としての道を外していないか」、「人様に迷惑をかけてないか」、「外で恥をかいていないか」…皆さんの健康と安全、そして成長を願い祈り、見守ってきてくれました…「有り難い」ことなのです。「おかげさま」で、今、皆さんは、この席に座ることができたのです。

ご家族の方々に、この人生の大きな節目で、深い感謝、「ありがとう」の気持ちを、どのような形でもかまいません。必ず、伝えてください。

次に、「真の幸せ」について…

皆さん、「人生の目的」「生きる目的」は何でしょうか。私は、「この世に、両親から、地球上に、約870万種もの「生命」が存在していると言われる中、『人間』としていただけた『命』に深く感謝しながら、自らの『魂』を磨き、『心』を高め、獲得した力で、世のため人のために役立つ人となる」ことだと考えます。

「世のため人のために役立つ人となる」…実は、この「人生の目的」こそが、私たち自身の最大の幸せ、幸福感につながっているのです。

私たちは、自らの存在、発言、行いが、他の人の人生の役に立ち、その人を幸せにすることができたとき、最大の「幸福感」が得られるのです。そして、「誰かのために」と、物事に取り組むときほど、私たちにはスイッチが入り、大きな力が発揮できるのです。

東京オリンピック・パラリンピック、北京オリンピックでのメダリストのコメントを一度は耳にされたことでしょうか。ここからも、うかがい知ることができます。

「メダルを獲れたのは、チームメイトやコーチ、スタッフ、これまで応援してき

てくれた皆さんのおかげです。メダル獲得で、お世話になった方々へ、少しでも“恩返し”ができて本当に良かったです。ありがとうございます」と、多くのメダリストから聞かれました…シナリオなどありません…メダリストの共通した実感なのです。一人では、絶対にメダル獲得まで到達できなかったことを、メダリスト自身が、一番よく分かっているのです。そして、コーチ、スタッフ、応援してくれ祈ってくれた皆さんに、メダル獲得を通して、喜び・幸せを分配できたことが、メダリスト自身の最高の幸福感となっているのです。

私たち人類は、「利己主義」ではない、他を思いやる、他の幸せを願う「利他の心」を実践することこそが、自らの幸せにつながる…「自分だけが幸せ」は有り得ない、皆が幸せで、真の幸福感を得ることができるよう創られているのです。

これは、「お裾分け」や、身内の中で起こったおめでたいことや喜びを独り占めせず、周囲の人に分ける「内祝い」など、いわゆる「幸福」を分ける「分福」が、日本の文化の中に根付いていることから分かるでしょう。

もちろん、日本だけのお話ではありません。世界三大聖人と評される、儒教の開祖「孔子」は「恕」の心、いわゆる「思いやり」が最も大切であると説き、仏教のお釈迦さんは「慈悲」を、イエス・キリストは「愛」を説かれました。宗教的天才と評される世界三大聖人が、人類にとって最も大切であると述べたことは、共通していることに気づかされます。

皆さん、自らの利「我利」ではない、他の利「利他の心」で、深く尊い、真の幸福に向って、真っ直ぐに歩いていってください。

次に…「素直な心」、「因果応報」、そして「運命」について…

人生百年時代、これから様々な出来事と遭遇されるでしょう。その時、「素直な心」で前向きに、物事を肯定的に捉えて歩いてください。足りないものを数えるのではなく、持っているものを大切に、欠点、悪い点を並べて悲観するのではなく、良い点を意識し、自らを信じて歩いてください。

「この世の流れ」、さらに言うなら、「宇宙全体の意志」とうものは、善き方向、正しい方向、あるべき方向、進化発展の方向へ進もうとしているのです。

「素粒子」のみ存在した宇宙が、“ビッグバン”を経て「原子」を生み、「分子」が生まれ、やがて「高分子」ができ、人類のような「高等生物」までも生み出した…このダイナミックな進化が、それを証明しています。

宇宙の一員であり、宇宙と一体である私たちは、それに逆行する生き方には、大きなストレスがかかり、否定的な心は、否定的な現実を引き寄せよう、創られているのです。「素直な心」で肯定的に、「はい」「できる」「大丈夫」「心配なし」「やってみよう」「力を合わせてやってみよう」…そう捉えた歩みを続けたならば、人生の法則、皆さんの人生を根本のところまで司っている「因果応報」…「素直な心」で善いことを行えば善き結果を招き寄せていくのです。もちろん、その逆もしかりです。この法則から逃れることはできないのです。

「運命」と聞けば、それは、どこかで誰かに決められているものであり、自分の力ではどうすることもできないものであると考えている人がいるのではないのでしょうか。そうではありません。「因果応報」…人生の結果は、すべて自らが作り出した原因から生じているのです。「命」を「運ぶ」ことこそ、「運命」であり、運ぶのは、紛れもない自分自身なのです。

自身が描く、希望の未来へ向かい、「宇宙全体の意志」に沿って真っ直ぐに、「素

直な心」で肯定的に人生を運んでいってください。その結果が、あなたの「運命」です。

最後にお伝えしたいこと…「本物」に向かって…

皆さん、「人の価値」というものがあるとすれば、それは何でしょうか。「知能」ですか。「学歴」ですか。「職業」ですか。「役職」ですか。「外見」ですか。「財産」ですか。「年収」ですか。

これだけは間違っただけはいけません…「人の価値」は、“人として” どうであるのか、「人となり」「人間性」「人物」、その一点のみです。

どれだけ「徳」を積み、人の「喜び」、「怒り」、「哀しみ」、「楽しみ」、「苦しみ」を知り、人に“思いやりの心”を持って接することができる人なのか、そして、「今日の、この会場、誰がシートを敷いて椅子を並べてくれたのかな」「壁の紅白幕は誰が」「国旗や県旗、校旗は誰が」「立派な花まで」…私たちのために、誰が汗をかくてくれたのだろうか、と想像を巡らせ、感謝の気持ちを抱ける人なのか…花の命が「香り」であるなら、人の命は「徳」を身に付けているか否かです。造花に「香り」はありません。表面だけみつくり、実践の伴わない、ことばだけを並べる人に「徳」の香り…にじみ出るエネルギー・オーラは感じられません。

人生を歩む中、時々、自らに問うてください。他人のことを問うのではありません。自らに問うてください。「我は、『感謝』の心を忘れず、『魂』を磨く日々を過ごしているか?」「『心』を高める努力をしているか?」「我は本物か?」

「一沈一珠（いっちゃんいっしゅ）」、海に潜る海女（あま）さんは、一旦潜ったなら、どんなに息が苦しくとも、一個の「真珠貝」を見つけ出すまでは、決して浮かび上がってきません…「一沈一珠」…「覚悟」を持って生きているのです。

皆さん、どんな「覚悟」を持って、何を見つけ掴（つか）み、歩んでいけますか。本気の「思い」「意識」「念ずる心」「祈り」の方向へ全身の細胞は大きなエネルギーを発揮します。「思い」「意識」「念」「祈り」は、いわば“種”であり、人生という庭に根を張り幹を伸ばし、花を咲かせ、実をつけるための、最も重要な第一歩なのです。

「思い」「意識」「念」「祈り」のパワーは計り知れません。人は、ここで初めて「人知を超えた偉大な力」と繋がり、「思い」「意識」「念」「祈り」は現実へ導かれると、私も経験上、確信しています。

目に見えない力の証明に、今の科学は追いついていません。この世の中、科学的に証明できていることは、まだまだほんのわずか…理屈抜き、証明などできない、しかしそうになっていく「思い」の力、そして「因果応報」…人知を超えた偉大な力への畏敬の念を決して忘れず、本気で生きる“覚悟”を決め、一度の人生、謙虚な心で「徳」香る、本物の人物、「徳人」に向かい、確かな歩みを続けてください。

保護者の皆様方、本日は、誠におめでとうございます。高等学校の三年間は、成長・変化の激しい時期であり、お子様の健やかな成長を願って支えてこられた皆様には、さぞや、ご苦労も多かったことと拝察いたします。それだけに、今日の佳き日を迎え、立派に成長されたお子様の姿に、感慨も一入のことと存じます。

職員一同、心よりお慶び申し上げますとともに、今日まで本校にお寄せいただきました深いご理解と多大なるご支援・ご協力に、改めて感謝申し上げます。

また、ご多用の中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には、重ねてお礼を申し上げますとともに、今後とも、本校の教育にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、いよいよ出発の時です。県内総合学科高校の先頭を走る須磨友が丘高等学校…今日の神戸新聞朝刊を見てください。2月の推薦入試に続き、3月入試も、県内総合学科で最高の倍率です。皆さんの取組が生んだ結果です。ここでの確かな取組、思い出、そして多くの友は、生涯にわたり、皆さんを励まし支える、心の「お守り」となることでしょう。

そして、人類が直面している、地球温暖化、飢餓、貧困、資源の枯渇、感染症、そして未だに武力行使という愚かさなど、待ったなしの課題への対応には、物事を常に多面的に捉え探求し解決していく、まさに総合学科で獲得された“総合的人間力”が求められているのです。

生涯、心の中心に置いていただきたい校訓、「知・考・行」…「知識」、自らを知り社会を知り、そこに自らの考え・哲学を入れ「見識」とし、見識をもって考え抜き探求して決断、決断したなら断じて実行する…この精神、「友が丘魂」で「志」高く、「世のため人のため」に、大いに活躍を、それぞれ歩まれる世界での“ビッグバン”に期待しています。

自らを信じ、一人一人、“持ち前”で勝負です！胸を張り、正々堂々と、正面突破で進んでいってください。あなたはあなた以外おらず、あなたの魅力はあなたにしか出せないのです。そして、生を受けた直後から、“エンジェルスマイル”で周囲の人を幸せにしてこられたように、クイックスマイル、笑顔を大切に、周囲の空気を明るくする存在となってください。

それでは、希望に満ちた出発の日にあたり、この学び舎を巣立ちゆく卒業生の皆さんの、前途に幸多からんことを、心から祈り念じ、式辞といたします。

令和4年3月1日

兵庫県立須磨友が丘高等学校 校長 川崎 芳徳